

手順①  
敷設面ごとのリード線(白・黒それぞれ)をまとめます。



手順②  
VVF 1.6mm (Fケーブル/VA線)と、①でまとめたリード線(白・黒それぞれ)をリングスリーブを用いて圧着結線します。

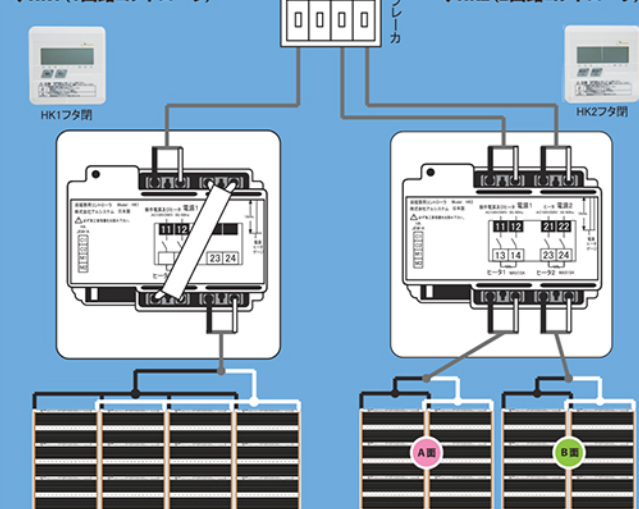


手順③  
圧着結線した部分を絶縁テープで絶縁防湿処理します。



手順④  
コントローラ取付け予定位置で仮止めします。電源側(一次側)も同様です。コントローラへの接続は右上図を参考にしてください。

◆HK1(1回路コントローラ)



コントローラは200V・100V兼用です。(床暖房の定格電圧に関わらず、コントローラは動作します。)コントローラの端子台はスクリューレス端子台です。VVF 1.6mm(Fケーブル/VA線)と接続してください。※アース線、温度センサは必要ありません。※必要に応じて、ホームオートメーション用端子台をご使用ください。

プリマヴェーラに合った電圧をかけてください  
100V用プリマヴェーラに200Vの電圧をかけると、プリマヴェーラは使用不可となります。  
200V用プリマヴェーラに100Vの電圧をかけると、温まりが極端に弱くなります。



◆床暖房検査表の記入方法

仕上げ材の施工と電気配線の完了後、検査を行い、数値を床暖房検査表に記入し、当社まで FAX 送信してください。

①現場合成抵抗値(Ω)の測定  
…2次側配線の線間測定  
プリマヴェーラの敷設面ごとの抵抗値を測定してください。リード線の長さや配線が確認するための検査です。

②絶縁抵抗値(MΩ)の測定  
…2次側配線の片側と対地(アース)間で測定  
プリマヴェーラ及び配線からの漏れ電流がないか確認するための検査です。正常値範囲から逸脱している場合は、速やかに当社営業担当にご連絡ください。

③昇温検査  
左の写真は、非接触温度計で温度上昇を確認している様子ですが、体感で昇温が確認できれば問題ありません。

重要 品質検査表 FAX:06-6310-6827

検査項目	測定値	判定	検査者
現場合成抵抗値(Ω)	200 V	OK	
絶縁抵抗値(MΩ)	500V 計測 100MΩ ~ ∞	OK	
50MΩ 計測	50MΩ ~ ∞	OK	
昇温検査	OK	OK	

製造・販売元  
**irsystem 株式会社 アルシステム**  
http://www.irsystem.jp

本社: 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-14-33 TCSビル6F  
TEL:06-6310-6826 FAX:06-6310-6827  
E-mail:osaka@irsystem.jp  
東京支店: 〒110-0013 東京都台東区入谷1-2-3 K・Kビル3F  
TEL:03-6802-4846 FAX:03-6802-4847

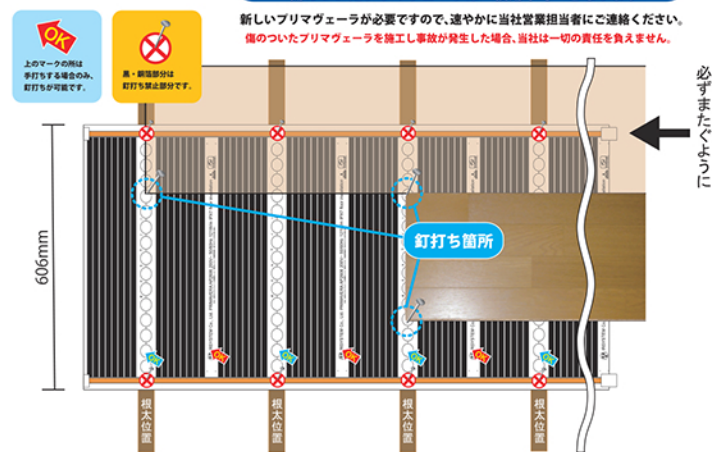
# 電気式エコ床暖房 プリマヴェーラ (PS)

# PRIMAVERA 施工要領

本製品を正しく安全に施工していただくために、本書の注意事項・施工方法をよくご理解いただき、施工してください。万一、本書と異なる施工を行い事故が発生した場合、当社は一切の責任を負えません。

基本情報と注意事項

◆釘打ち可能な場所について **プリマヴェーラの透明部分以外は釘打ちできません。**  
傷のついたプリマヴェーラは「使用不可」となります



◆その他注意事項

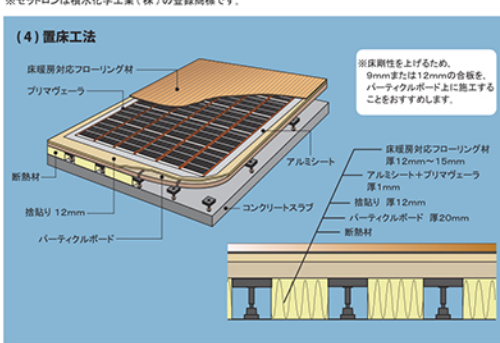
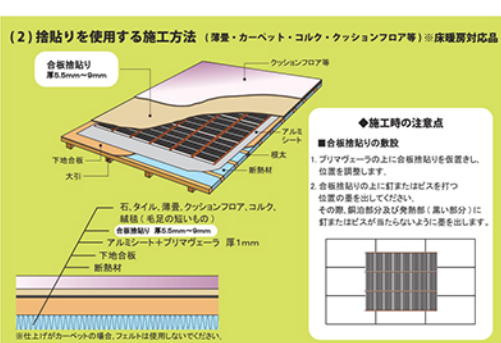
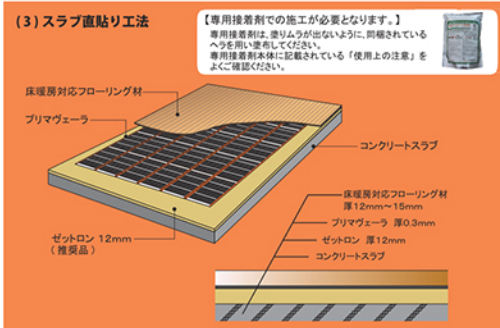
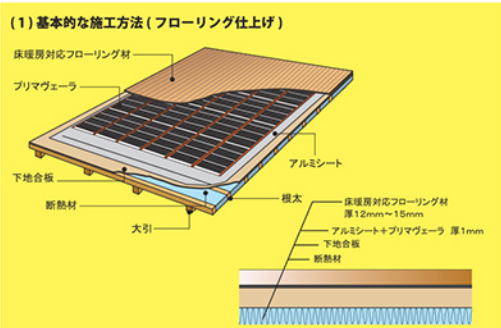


- ①プリマヴェーラには303mmピッチにある釘打ちラインに釘打ちしてください。
- ②フロアネイルを使用し、手打ちされることをおすすめします。
- ③フィニッシュネイルでの施工は、床鳴りが発生する可能性があるため、おやめください。
- ④ステーブル等の施工もできますが、釘が鋭ね返る恐れがありますので、手打ちをおすすめします。

◆1尺×6尺フロアの施工について  
【フロアの長手方向】→鋼箔部分をフロアでまたいでください。  
プリマヴェーラの幅は606mmですので、プリマヴェーラの両端にある鋼箔部分をまたくように敷設してください。

【フロアの短手方向】→継ぎ手をシートの透明部分に合わせてください。  
プリマヴェーラには303mmごとに釘打ちラインがありますので、継ぎ手を釘打ちラインに合わせて敷設してください。

施工方法別 断面図





# ① 施工の前に

## ◆ 施工に関する注意事項

施工前にフロア方向、貼り始めの位置、配線方法、コントローラ位置等を必ず確認してください。



出荷明細書と商品の確認をお願いします

商品到着後（納品日）、1週間以内に出荷明細書と商品をご確認ください。  
※期限が過ぎている場合、対応をしかねることがあります。



通電は接着剤乾燥後にお願いします

通電は接着剤が完全に乾いてから行ってください。  
（目安：夏期は2～3日、冬期は5日以上）

接着剤が固まる前に電気を通して熱を加えたり、接着剤を塗りすぎたりすると、しっかり接着せず、床鳴り他問題が発生する可能性があります。



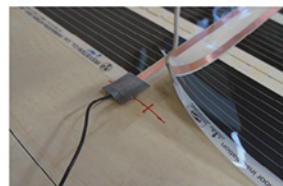
施工の前に当社営業担当者までご連絡ください

初めて当社製品を施工される施工店様は、必ずご連絡ください。  
当社営業担当者が施工説明に伺います。  
その際、大工様・電気工事様・現場監督様のご同席をお願いいたします。また、日程の調整はお早目をお願いいたします。



### 手順① プリマヴェーラ 敷設位置の確認

プリマヴェーラを仮置きし、敷設部分の墨を出します。  
（アルミシート敷設の際、出した墨が隠れてしまいますので、予め長めに墨を出してください。）



### 手順② ターミナル位置 の確認

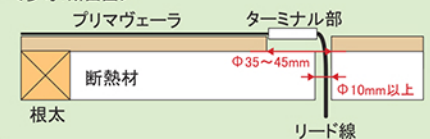
プリマヴェーラのターミナル位置の下部合板に、印をつけます。  
配線方法は3通りありますので、現場の環境に合わせて選択してください。

# ② 配線のための下地加工（3通りの方法があります。）

## ◆ 方法① < くりを使った床下配線 >



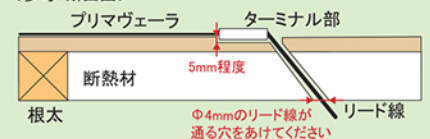
< 参考：断面図 >



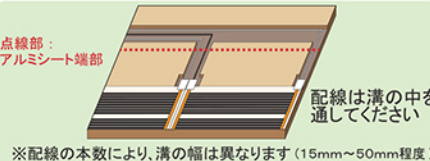
## ◆ 方法② < 座彫りしての床下配線 >



< 参考：断面図 >



## ◆ 方法③ < 溝掘り配線 >



### 下地加工後は 清掃をお願いします

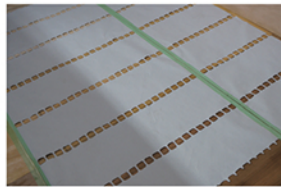
施工する部分にゴミが入ってしまった場合、床鳴り、傷つきによる漏電の恐れがあります。

# ③ アルミシートの敷設



### 手順① アルミシートの 敷設 1

アルミシートはプリマヴェーラ敷設部より 50 ~ 100mm 程度広く敷設してください。  
また、アルミ面は下地側にしてください。



### 手順② アルミシートの 敷設 2

アルミシート同士は重ならないように、突き付けで配置してください。  
固定には養生テープを用い、タッカーは使用しないでください。



### 手順③ 突起物の確認

下地からの突起物の確認を行ってください。

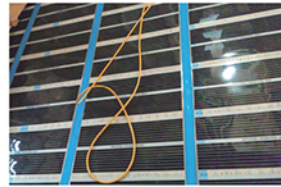


### 手順④ 配線

※床上配線は方法が異なります。

前項で下地の加工を施した部分のアルミシートに切り込みを入れ、プリマヴェーラのリード線を床下に落とします。

# ④ プリマヴェーラの敷設と仕上げ材の施工



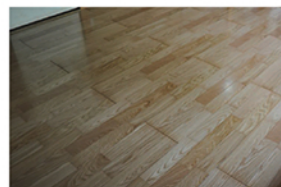
### 手順① プリマヴェーラ の敷設

仕上げ材の釘打ち部にアルミシートの穴、プリマヴェーラの穴が重なるように敷設してください。  
なお、固定には養生テープを用い、釘打ちライン上の銅箔部を隠すように貼り付けてください。



### 手順② 仕上げ材の施工

仕上げ材毎の施工要領に沿って仕上げ材の敷設を行ってください。  
プリマヴェーラ敷設部分への接着剤塗布は釘打ちラインの穴に沿って行いますが、接着剤は銅箔部分に付着しないようにしてください。  
接着剤は、コニシ社製 KU928C-X 同等品をご使用ください。

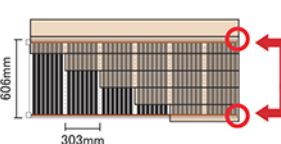


### 施工完了

仕上げ材の施工が完了すると、電気配線作業に移ります。  
電気配線は必ず電気工事士の有資格者がおこなうようにしてください。

### ◆ 乱尺のフロア

乱尺のフロアの場合も、1尺 × 6尺フロアと同様に、銅箔部分を必ずまたくように敷設してください。



### フィルム同士を少し離す時

※温度差を避けるため、フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

※フィルム間の隙間はできる限り少なくしてください（最大で10mm）

どのようにも銅箔部分にフロアの継ぎ手がある場合は、プリマヴェーラの透明部分を重ねたり、プリマヴェーラ同士を離したりして、割り付けを行ってください。

※割り付けを合わせるために、余っている棒を物差し代わりにする方法や、予めプリマヴェーラを固定するのではなく、フロアを敷設しながら、1枚1枚ずらして固定する方法があります。

※輸入材、無垢材での施工をご希望される際には、当社営業担当者にご相談ください。